

2023年3月期 第2四半期 決算説明会

2022年11月16日
証券コード 6331

I . 事業概況	P. 3
II . 決算実績	P. 9
III . 業績予想	P. 16
IV . 中期経営計画 ～取り組み状況～	P. 20
Appendix 1. 過去5年間の業績推移	P. 30
Appendix 2. 会社概要	P. 34

I . 事業概況

■ 当社はプラント・環境設備の建設・エンジニアリングと各種単体機械の製作を軸に事業を展開

エンジニアリング事業

プラント事業

水素製造装置

電力、化学
医薬、食品
関連プラント

都市ガス関連

石油化学

石油精製



環境事業

下水処理

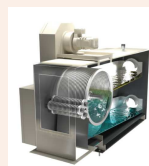
廃棄物処理

バイオガス
関連プラント

超高速沈殿装置

ごみ浸出水処理

脱臭



単体機械事業

油清浄機

遠心分離機

ろ過機

船舶環境規制
対応機器

海水取水用
除塵装置

攪拌機



トップシェア製品・技術

- 三菱セルフジェクター（船用油清浄機）【上図 ①】
- HyGeia-A（高効率小型オンサイト水素製造装置）【上図 ②】

コア技術

固体・液体・気体の分離

気候変動対策に加え、エネルギー安全保障の必要性が高まり、
脱炭素社会の実現に向けた動きが世界的に加速

■ 2021年度

- 2021年 4月 ● 「気候サミット」において、政府が、2030年時点の温室効果ガスの削減目標を引き上げ
- 8月 ● NEDOが「グリーンイノベーション基金事業」の第1号案件（水素に関する11テーマ）の実証研究事業に着手
- 10月 ● 「第6次エネルギー基本計画」が閣議決定
- 11月 ● 「COP26」開催
- 2022年 2月 ● ロシアによるウクライナ侵攻を発端に、世界的にエネルギー安全保障の問題が改めて重要課題に浮上
- 日本においても、エネルギー安定供給確保を大前提としつつ、石油ショック時以来の大胆な構造転換が求められる状況に

■ 2022年度

- 政府が、脱炭素社会の実現に向けた道筋を示す「クリーンエネルギー戦略」を検討中
- 政府が、脱炭素社会への移行に向けた政策を検討する「グリーントランスフォーメーション(GX)実行会議」にて、GX経済移行債（仮称）の創設等を検討中

当社の成長分野の見通しとこれまでの取組み

- 持続可能な社会の実現に向けて、バイオガス・バイオ燃料等のクリーンエネルギー関連、廃プラスチックリサイクル関連の更なる市場拡大が見込まれる
- 当社保有技術を活かした新規事業構築に向けて、下記の通り積極的な取組みを推進

動向・見通し	主な成長分野	これまでの取組み	
<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素化の加速 ➡ <u>バイオガス</u>利用の市場が活性化 	<u>バイオガス利用</u> 	2021年度 <ul style="list-style-type: none"> ・唐津市より<u>汚泥熱可溶化装置</u>を初受注 	2022年度 <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市下水<u>バイオガス原料水素ステーション</u>につき、新協議会を関係会社と共同で設立
<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素化の加速 ➡ <u>バイオ燃料</u>や<u>サプリメント・医薬品の原料</u>として藻類に注目 	<u>微細藻類活用</u> 	2020年度 <ul style="list-style-type: none"> ・当社施設内にて<u>藻類生産設備</u>の実証を完了 	2022年度 <ul style="list-style-type: none"> ・NEDO事業へ抽出装置を納入 ・JSTの<u>微細藻類プラットフォーム</u>開発プログラムに参画
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>プラスチックごみ問題</u>、<u>各国法整備</u>等 ➡ <u>廃プラスチックリサイクル</u>の必要性が加速 	<u>廃プラスチックリサイクル</u> 	2022年度 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>廃プラスチック</u>の<u>ガス化</u>及び<u>メタノール化</u>実証事業に参画 	

業界環境

エンジニアリング事業



プラント

- 半導体に関する投資の増大により、プラント建設案件が増加
- コロナ禍の影響で、材料・資材の納期遅延や価格高騰が継続



水素・エネルギー

- カーボンニュートラルに向けて水素関連の案件が増加
- ブルー水素 / グリーン水素 への社会的要請が強まっている



環境

- 大型案件は、PFI等の発注形態が増加傾向。下水需要は、ほぼ横ばいが継続
- バイオガス関連は脱炭素化の加速により、民間でのバイオガス利用が活性化

単体機械事業



産業機械

- コロナ禍の影響は一部残るものの、国内生産増強、老朽化更新等設備投資は堅調
- 脱炭素化、生産効率向上を目的とした設備投資が具体化



船用機械

- 船舶環境規制対応機器のSOx規制対応では、規制適合油の採用傾向が続く
- 海運業界では、燃料のクリーンエネルギー化が加速

トピックス

- 国内初となる廃プラスチックのガス化及びメタノール化実証事業へ参画
- 下水バイオガス原料水素ステーションの機能強化と水素普及に向けた活動を共同で実施するための「福岡市グリーン水素活用推進協議会」に参画
- オンサイト水素製造装置 HyGeiaシリーズは電材向け、カーボンニュートラル向けに受注堅調
- 高砂ケミカル掛川工場が建設中の医薬品・ファインケミカル等連続生産設備（iFactory®）に、連続ろ過機・連続乾燥機を納入
- NOx規制対応EGRエンジンシステム用排水処理装置は受注堅調
また、LNG燃料焚きエンジンに対応する新たな型式を市場投入

Ⅱ．決算実績

連結損益計算書

- 売上高は、前年同期比0.9%減
- 営業利益は、売上原価率の改善により増加

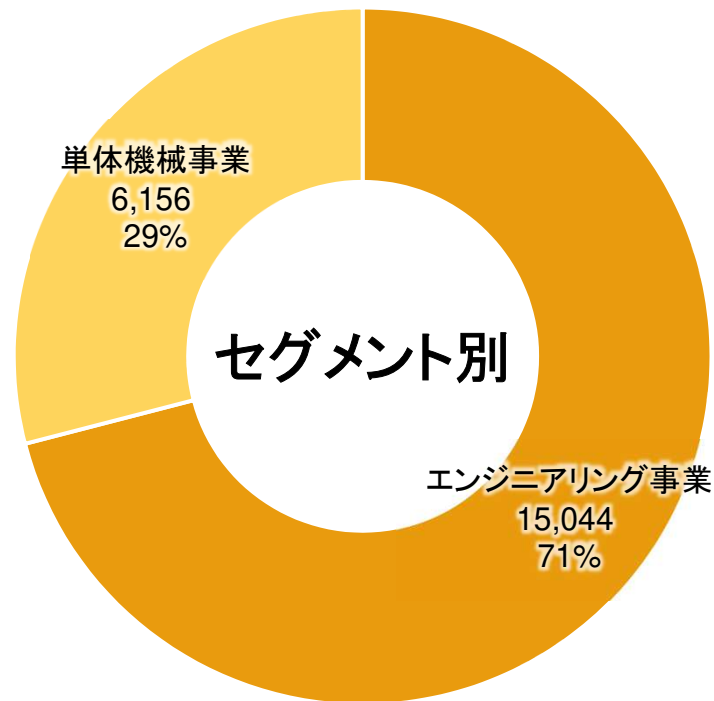
(単位: 百万円)

	22/3月期2Q		23/3月期2Q				前年同期比	
	実績	売上比	予想 2022.7時点	売上比	実績	売上比	増減額	増減率
売上高	21,399	-	24,000	-	21,200	-	▲199	▲0.9%
売上原価	17,351	81.1%	-	-	16,273	76.8%	▲1,077	▲6.2%
販売費及び一般管理費	2,680	12.5%	-	-	3,023	14.3%	+343	+12.8%
営業利益	1,367	6.4%	1,400	5.8%	1,902	9.0%	+535	+39.2%
経常利益	1,507	7.0%	1,650	6.9%	2,163	10.2%	+655	+43.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,173	5.5%	1,250	5.2%	1,536	7.2%	+362	+30.9%
1株当たり当期純利益(円)	154.43	-	164.30	-	201.74	-	47.31	-

セグメント別・地域別売上構成

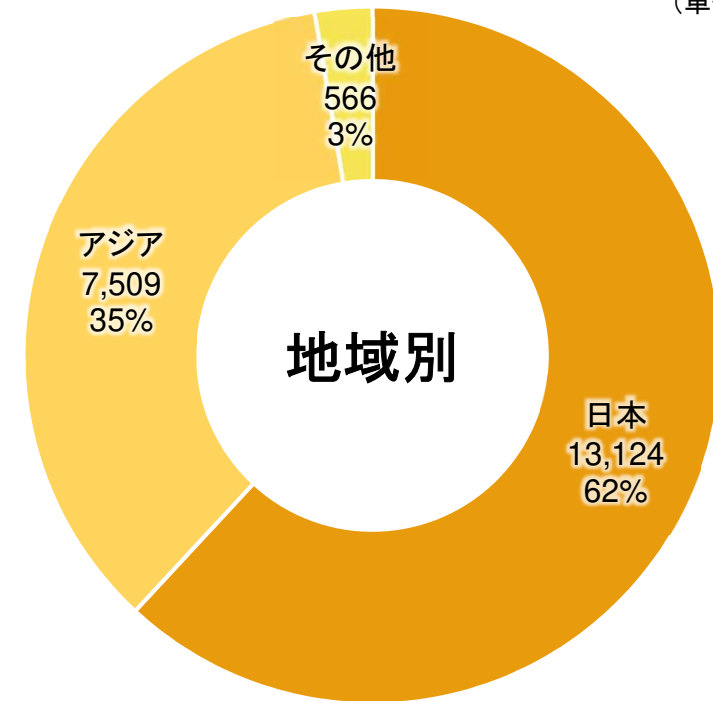
2022年9月末 連結売上高: 21,200 百万円

(単位: 百万円)



■ エンジニアリング事業 ■ 単体機械事業

- エンジニアリング事業は、前年同期比4.9%減
- 単体機械事業は、前期及び当期受注高の増加を反映し、前年同期比10.3%増



■ 日本 ■ アジア ■ その他

- 日本国内は、前期の受注高の減少を反映し、前年同期比13.5%減
- アジア地域は、台湾で増加し、前年同期比28.3%増

セグメント別の状況

① エンジニアリング事業

(単位: 百万円)

	22/3月期2Q	23/3月期2Q	前年同期比		
	実績	実績	増減額	増減率	主な増減要因
受注高	14,860	14,622	▲237	▲1.6%	—
売上高	15,816	15,044	▲772	▲4.9%	—
セグメント利益	803	918	+115	+14.4%	売上原価率の改善
受注残高	35,048	35,604	+556	+1.6%	—

② 単体機械事業

(単位: 百万円)

	22/3月期2Q	23/3月期2Q	前年同期比		
	実績	実績	増減額	増減率	主な増減要因
受注高	6,333	7,376	+1,043	+16.5%	製品全般にわたる受注増
売上高	5,583	6,156	+573	+10.3%	前期及び当期受注高の増加
セグメント利益	564	983	+419	+74.4%	売上高の増加、売上原価率の改善
受注残高	5,385	7,179	+1,794	+33.3%	—

■ 人件費、見積設計費の増加等により、前年同期比12.8%増

(単位:百万円)

	22/3月期2Q		23/3月期2Q		前年同期比	
	実績	売上比	実績	売上比	増減額	増減率
給与・賞与	1,041	4.9%	1,157	5.5%	+115	+11.1%
見積設計費	509	2.4%	538	2.5%	+28	+5.7%
減価償却費	43	0.2%	68	0.3%	+24	+56.0%
研究開発費	101	0.5%	99	0.5%	▲1	▲1.7%
その他	984	4.6%	1,160	5.5%	+176	+17.9%
合計	2,680	12.5%	3,023	14.3%	+343	+12.8%

連結貸借対照表

- 買入債務の減少等により総資産は減少。利益剰余金の計上等により純資産が増加した結果、22/9期末の自己資本比率は57.2% (22/3期末は54.1%)

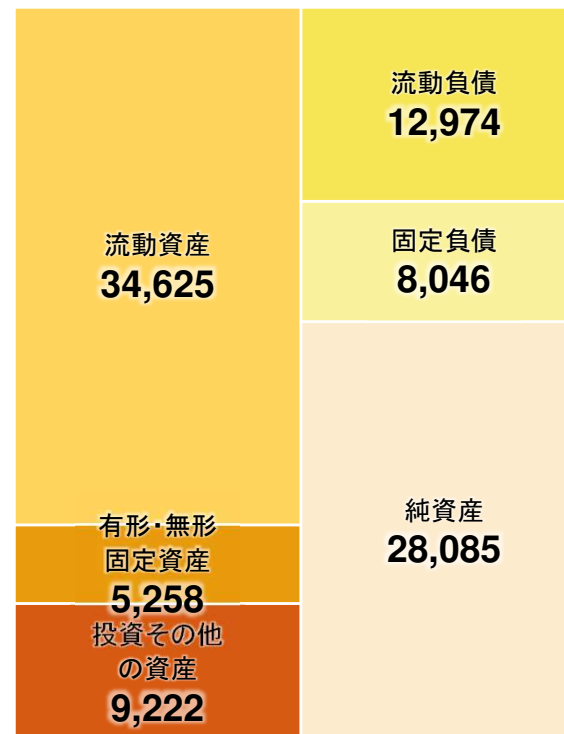
(単位: 百万円)

2022年3月末



総資産 50,521百万円

2022年9月末



総資産 49,105百万円

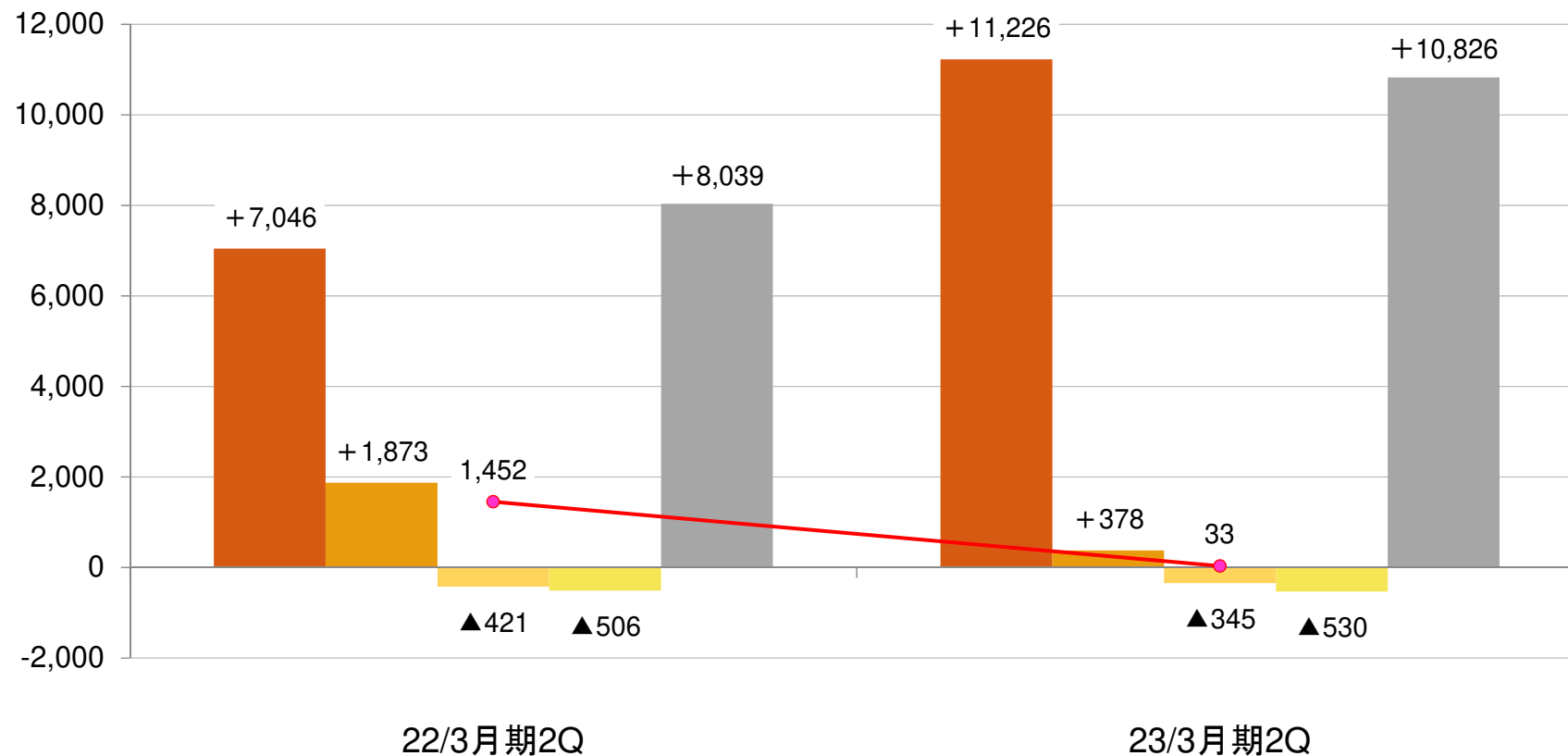
前年同期比

流動資産	▲676
現金・預金	▲400
売上債権	▲1,582
棚卸資産	+1,231
有形・無形固定資産	▲132
投資その他の資産	▲605
流動負債	▲2,476
買入債務	▲2,259
1年内返済予定長期借入金	▲500
未払法人税等	▲430
契約負債	+1,477
固定負債	283
純資産	+778
利益剰余金	+998

連結キャッシュ・フロー計算書

■ 営業キャッシュフローの減少により、フリーキャッシュフローは減少

(単位: 百万円)



期首現金・現金同等物残高

財務キャッシュフロー

営業キャッシュフロー

期末現金・現金同等物残高

投資キャッシュフロー

フリーキャッシュフロー

Ⅲ. 業績予想

2023年3月期 連結業績予想

- 売上高は、前期の受注高の増加を反映して、460億円を見込む
- 営業利益は、売上原価率が改善し、前年同期比1.1%増加を見込む

(単位:百万円)

	22/3月期		23/3月期2Q		23/3月期 (2022.10予想)		前年同期比 (2022.10予想)	
	実績	売上比	実績	売上比	予想	売上比	増減額	増減率
売上高	45,438	-	21,200	-	46,000	-	561	+1.2%
売上原価	37,123	81.7%	16,273	76.8%	-	-	-	-
販売費及び一般管理費	5,545	12.2%	3,023	14.3%	-	-	-	-
営業利益	2,770	6.1%	1,902	9.0%	2,800	6.1%	29	+1.1%
経常利益	3,230	7.1%	2,163	10.2%	3,050	6.6%	▲180	▲5.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,547	5.6%	1,536	7.2%	2,150	4.7%	▲397	▲15.6%
1株当たり当期純利益(円)	335.07	-	201.74	-	282.37	-	-	-

2023年3月期 セグメント別業績予想

① エンジニアリング事業

(単位: 百万円)

	22/3月期	23/3月期2Q	23/3月期 (2022.10予想)	前年同期比 (2022.10予想)		
	実績	実績	予想	増減額	増減率	主な増減要因
受注高	33,234	14,622	34,500	+1,265	+3.8%	—
売上高	33,212	15,044	33,000	▲212	▲0.6%	—
セグメント利益	1,436	918	1,150	▲286	▲20.0%	研究開発費、人件費等の固定費の増加
受注残高	36,026	35,604	37,526	+1,500	+4.2%	—

② 単体機械事業

(単位: 百万円)

	22/3月期	23/3月期2Q	23/3月期 (2022.10予想)	前年同期比 (2022.10予想)		
	実績	実績	予想	増減額	増減率	主な増減要因
受注高	13,549	7,376	13,500	▲49	▲0.4%	—
売上高	12,225	6,156	13,000	+774	+6.3%	—
セグメント利益	1,334	983	1,650	+315	+23.7%	売上高の増加、売上原価率の改善
受注残高	5,959	7,179	6,459	+500	+8.4%	—

2023年3月期予想

配当方針

当社は、株主各位に対する利益還元を最重要政策としており、そのため長期にわたる安定的な経営基盤と内部留保の充実をはかりつつ、成果の配分を行うことを配当政策の基本としております

	2Q末	4Q末	合計	配当性向
2023年3月期配当予想	0円00銭	70円00銭	70円00銭	—
(ご参考) 2022年3月期	0円00銭	70円00銭	70円00銭	20.9%

IV. 中期経営計画 ～取り組み状況～

方針

経営ビジョンで定めた4つの戦略的事業領域実現に向け、戦略的投資を増大し、新規事業創出の足固めを行い、進化と変革への第一歩とする

骨子 ① 新たな事業ポートフォリオの確立

新規事業の創出

- ① 持続可能な循環型社会推進事業
- ② 水素を核としたクリーンエネルギー事業
- ③ デジタルを活用した省力・省エネ事業
- ④ 水・食・自然災害等の課題解決に向けた次世代技術開発事業



現中計では、上記①②に関連する分野において、新たなビジネスの確立を目指す

既存事業の再構築および収益性の改善

- 成長性・収益性の観点から事業を再評価
- 必要に応じて
挺入れ・撤退を実施し、
選択と集中を推進

骨子 ② 経営基盤の確立

モノづくり戦略の確立

グループ経営の推進

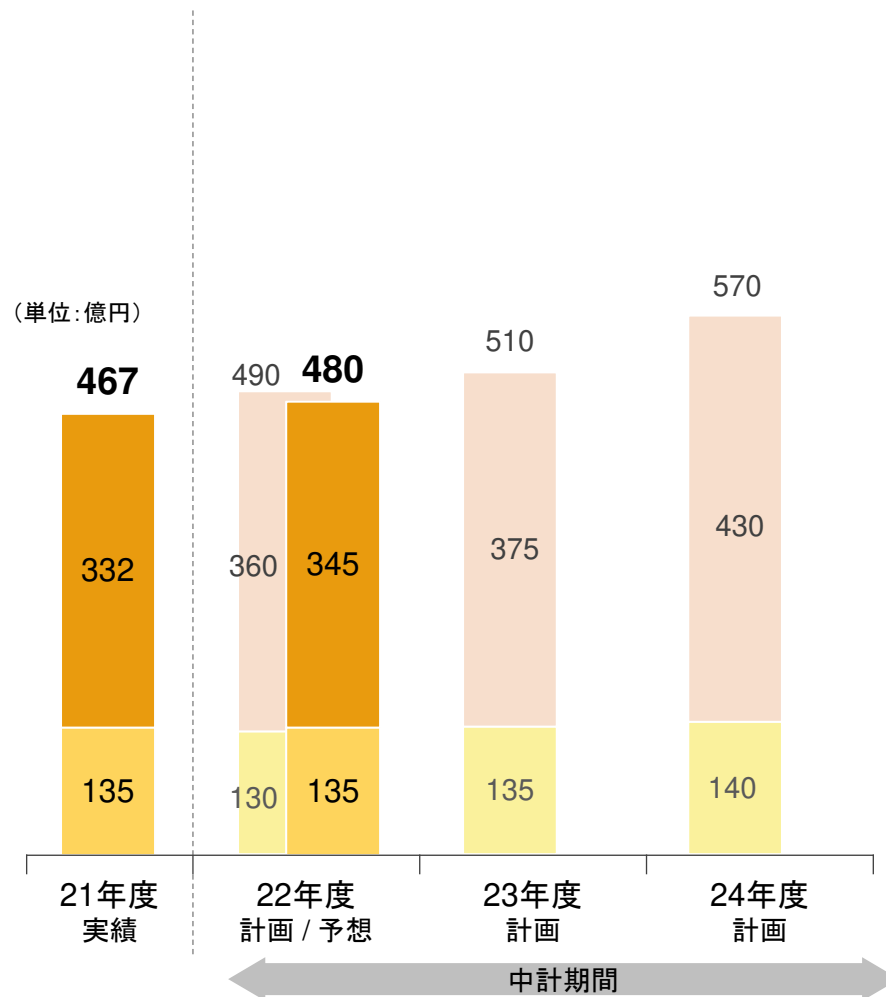
企業価値の向上

中期経営計画の数値計画と進捗状況

■ 最終期で、受注高570億円、売上高550億円、営業利益率5.0%以上、ROE7.0%以上を目指す

【連結】受注高

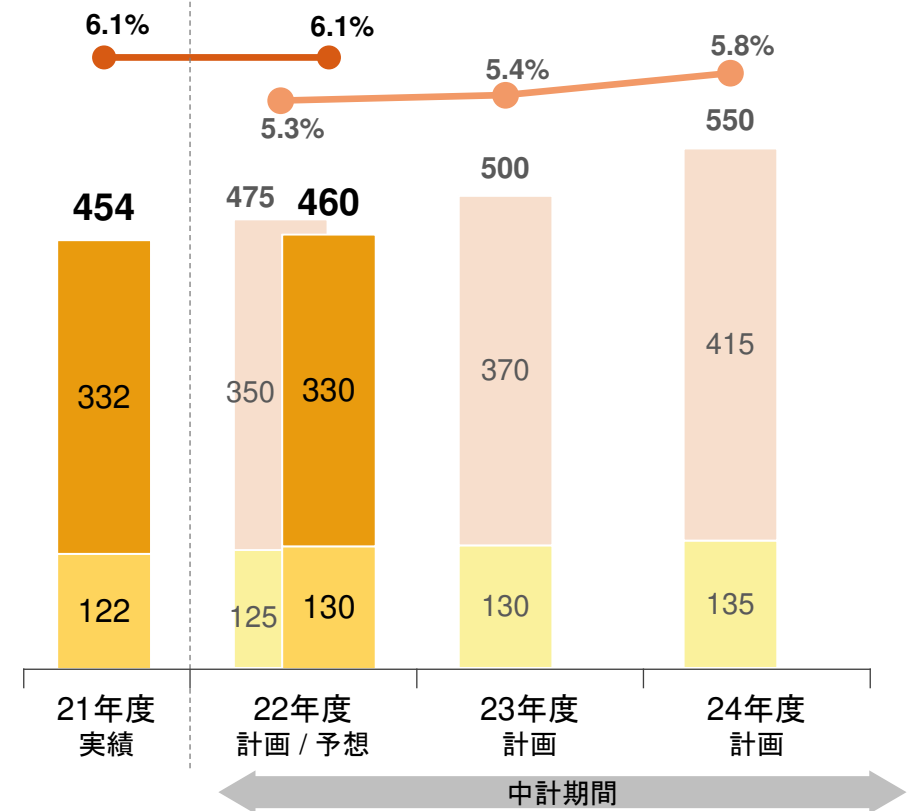
■ エンジニアリング 実績/予想 ■ エンジニアリング 数値計画
■ 単体機械 実績/予想 ■ 単体機械 数値計画



【連結】売上高・営業利益率・ROE

■ エンジニアリング 実績/予想 ■ エンジニアリング 数値計画
■ 単体機械 実績/予想 ■ 単体機械 数値計画
— 全社営業利益率 実績/予想 — 全社営業利益率 数値計画

R O E	実績/予想	9.7%	—	—	—
	数値計画	—	6.0% 以上	6.0% 以上	7.0% 以上



廃プラスチックリサイクルへの取組み

戦略的事業領域① ~循環型社会推進事業~

■ 廃プラスチックのガス化及びメタノール化実証事業の開始

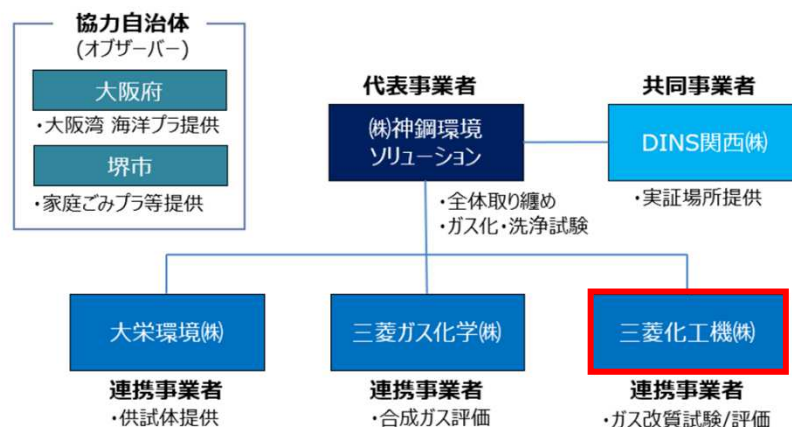
事業目標

- 廃プラスチックをガス化及びメタノール化できる、国内初のケミカルリサイクル資源循環システムの構築

● 目標とするプロセス

- ① 金属等の異物が混入した性状変動が大きい雑多な廃プラスチックの安定的な処理
- ② 生成した合成ガスから製造する環境循環型メタノールにつき、市場に受け入れられる価格を実現

実証事業の体制・各社役割



本年8月、5社の共同事業にて
「廃プラスチックのガス化及びメタノール化実証事業」
として環境省へ提案

環境省「令和4年度 脱炭素社会を支える
プラスチック等資源循環システム構築実証
事業」に採択

新規事業の創出に向けた取組み②

下水バイオガス原料 地産地消型水素ステーション

戦略的事業領域① ~循環型社会推進事業~

戦略的事業領域② ~クリーンエネルギー事業~

■ 新たに設立された「有限責任事業組合福岡市グリーン水素活用推進協議会」に参画

設立目的

- 下水バイオガス原料水素ステーションの機能強化
- 水素の普及に向けた活動の推進

協議会 構成員

- 福岡市
- 正興電機製作所
- 西日本プラント工業
- 西部ガス
- 豊田通商
- 三菱化工機



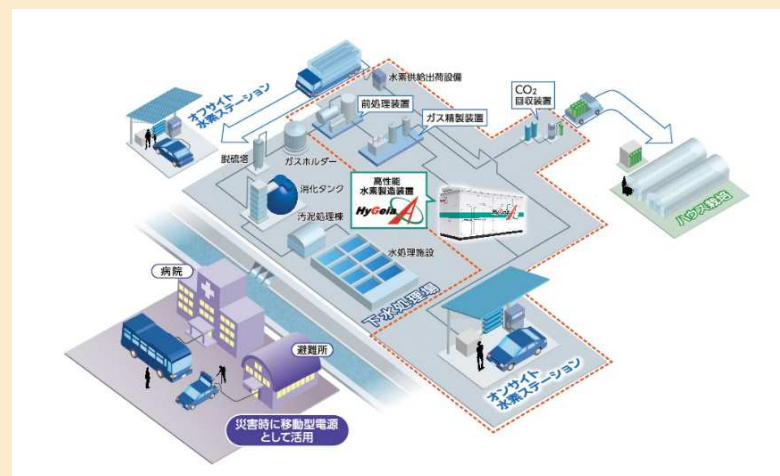
グリーン水素供給モデルの普及について言及する
田中取締役社長

8月29日、
福岡市役所にて実施した
共同記者会見の様子



主な取組み状況

- 九州大学と協議会で、福岡市グリーン水素活用に向けた連携協定を締結
- 実証設備を国から福岡市に移管し、9月26日より水素ステーションの運営を再開



運営を再開した設備(水素ステーション)の概図
※赤色点線枠内が、本協議会の運営範囲となります。

省エネ医薬品製造設備開発への取組み

戦略的事業領域③ ~省力・省エネ事業~

■ 連続生産方式を採用したモジュール型医薬品製造設備 (iFactory®) の開発

開発目的



実用化に向けて開発が進められている
iFactory®のモジュール(左)と
自動分析装置(右)

● 医薬品製造業界の課題

- ・ 生産に伴い発生する廃棄物量やCO₂量の削減
- ・ 必要なモノを必要な時に必要な量だけ作る「オンデマンド生産」への適応

- 連続生産方式を採用した、モジュール型の
医薬品製造設備「iFactory®」(アイファクトリー)の開発を行う
NEDOの実証事業に参画

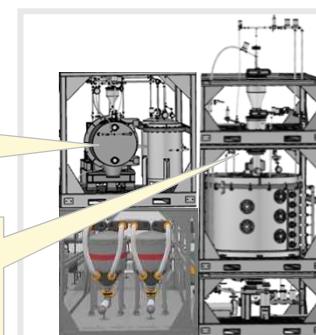
主な取組み状況

2021年度 連続ろ過機と連続棚段乾燥機が完成

2022年度 高砂ケミカル掛川工場が建設中のiFactory®に
連続ろ過機・連続乾燥機を納入

連続ろ過機
CURUPO®

連続棚段乾燥機
プレートドライヤ



iFactory®モジュールの概念図

微細藻類および植物による 有用物質プラットフォームの開発

戦略的事業領域② ~クリーンエネルギー事業~

戦略的事業領域④ ~次世代技術開発事業~

■ 藻類バイオマスの培養・収穫、オイル・色素などの成分抽出装置の開発

開発背景

- 当社は微細藻類の培養・分離・抽出設備の実績を有する

世界的にカーボンニュートラルの取組みが拡大

➔ 微細藻類を基点とする産業構築に期待



当社川崎製作所内に建設された
藻類培養研究施設(フォトバイオリアクター)

主な取組み状況

2020年度 「都市型フォトバイオリアクター」を当社構内に設置し、藻類培養実証を開始




2022年度 NEDO「バイオジェット燃料生産技術開発事業」再委託研究において、ヌツチェ型抽出装置を納入

JSTの産学連携プログラム「共創の場形成支援プログラム」『バイオDX産学共創拠点』に産学官共同で参画

■ 東京工業大学との共同研究用に、培養装置を当社川崎製作所内に新設予定

■ 当社保有技術である藻類培養、分離設備、抽出設備等を活用し、またそれらを組み合わせた生産設備の建設にも取り組む方針

その他主要な取組み エンジニアリング事業

事業内容		主な実績			取組み状況	
エンジニアリング事業	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>小型オンサイト水素製造装置 HyGeiaシリーズ</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水素製造装置HyGeiaシリーズの出荷は半導体、電子材料業界を中心に底固く推移 			<ul style="list-style-type: none"> ● <u>製造水素のCO₂フリー化</u>に向けて取組み中 	
			21/3月期	22/3月期	23/3月期	24/3月期(予定)
		出荷基数	5基	6基	2基	(9基)
	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>吸蔵合金水素圧縮機の開発</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>吸蔵合金水素圧縮機(実証機)</u>を設計・製作 ● 試験運転により、計画の1MPaG未満の低圧水素を19.6MPaGまで昇圧、吐出流量1Nm³/hを実現 			<ul style="list-style-type: none"> ● <u>吸蔵合金水素圧縮機</u>運転に必要なエネルギー削減検討等を実施中 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>汚泥熱可溶化装置の拡販</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転状況から、実証事業で計画した性能を満たしていることを確認 ● 2021年10月、実装置としての本装置を唐津市浄化センターより初受注 			<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も自治体へのPR活動、FS協力を行い更なる受注獲得を目指す 	

事業内容	主な実績	取組み状況
<p>● <u>EGRエンジンシステム用排水処理装置</u></p> <div data-bbox="226 491 983 810">  </div>	<p>● 3次規制により、<u>ECA</u>海域を航行する船舶向けの受注が堅調</p>	<p>● LNG燃料焚きエンジンに対応する新たな型式を市場投入</p>
<p>● <u>MJ-SO_x(SO_xスクラバー)</u></p> <div data-bbox="385 1038 840 1410">  </div>	<p>● 各船主は<u>規制適合油</u>の採用を継続しており、スクラバー搭載は低迷</p> <p>● 脱炭素に向けた新燃料船の開発検討が活発化</p>	<p>● コスト競争力の強化</p> <p>● 搭載需要の調査と引合入手</p> <p>● 国内船主／造船所への販売</p>

その他の中期経営計画に係る取組み

骨子 ①

新たな事業ポートフォリオの確立

- 新規投資および既存事業見直しの為の新たな評価ルール導入を決定(2022年10月)
- 経営ビジョン実現に向けた機構改革の実施(2022年4月)
 - 戦略的事業領域に対応する製品開発加速のため、技術開発・生産統括本部を新設
 - DXを活用したモノづくりの高度化・効率化、生産体制強化のため、DX推進部門を新設
- TCFD提言への取組みを開始(2022年4月)

骨子 ②

経営基盤の確立

- 中期経営計画(2022年度~2024年度)の策定・公表(2022年5月)
- 中期経営計画の浸透および従業員エンゲージメント向上のため、社長とのタウンホールミーティングを実施(2022年7月~11月)
- 経営環境変化へ柔軟に対応し、重点領域への人材配置を図るため、社内公募制度を導入(2022年9月)
- 各種SDGs債への投資を決定(2022年9月~11月)



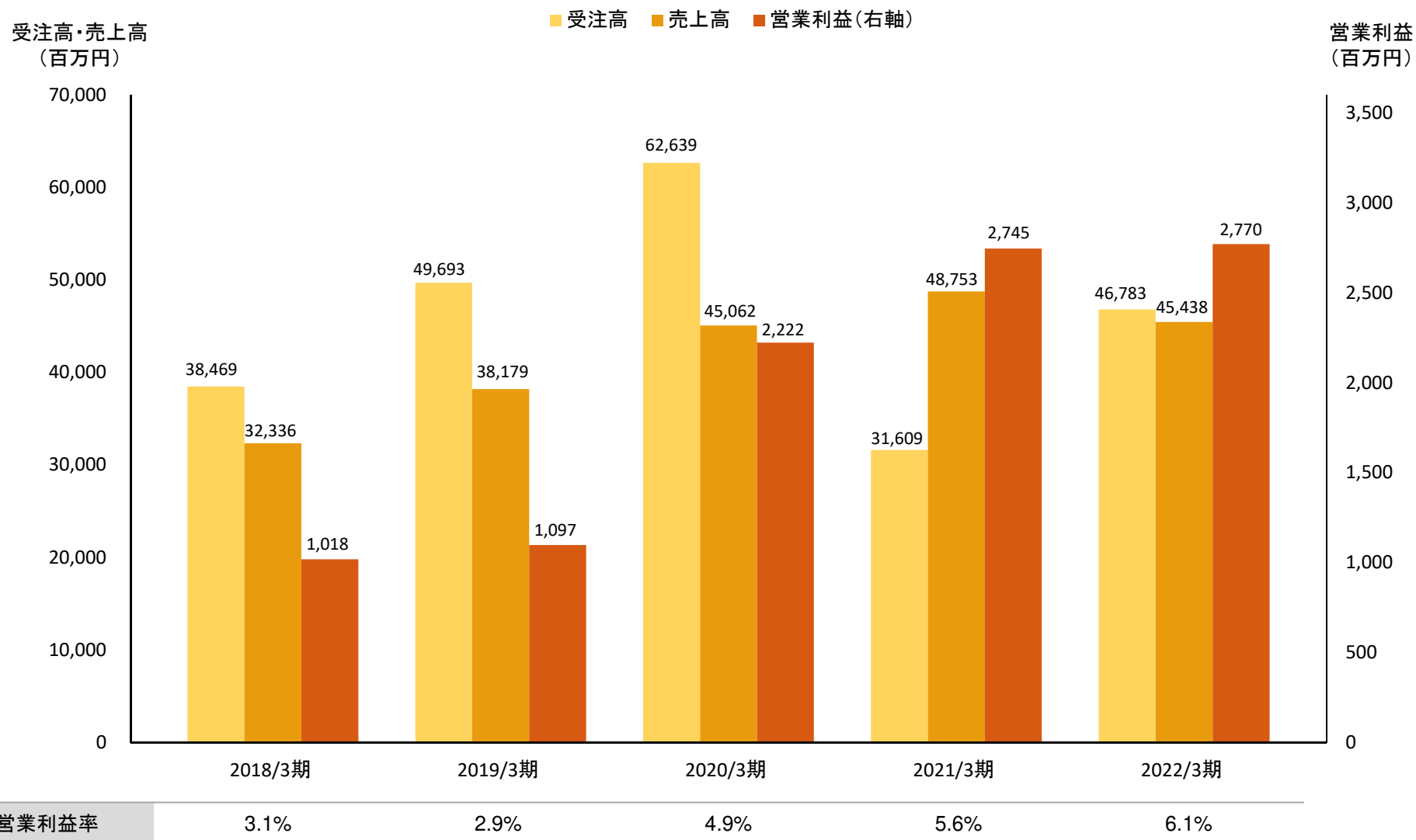
タウンホールミーティングの様子

Appendix 1.

過去5年間の業績推移

業績の推移

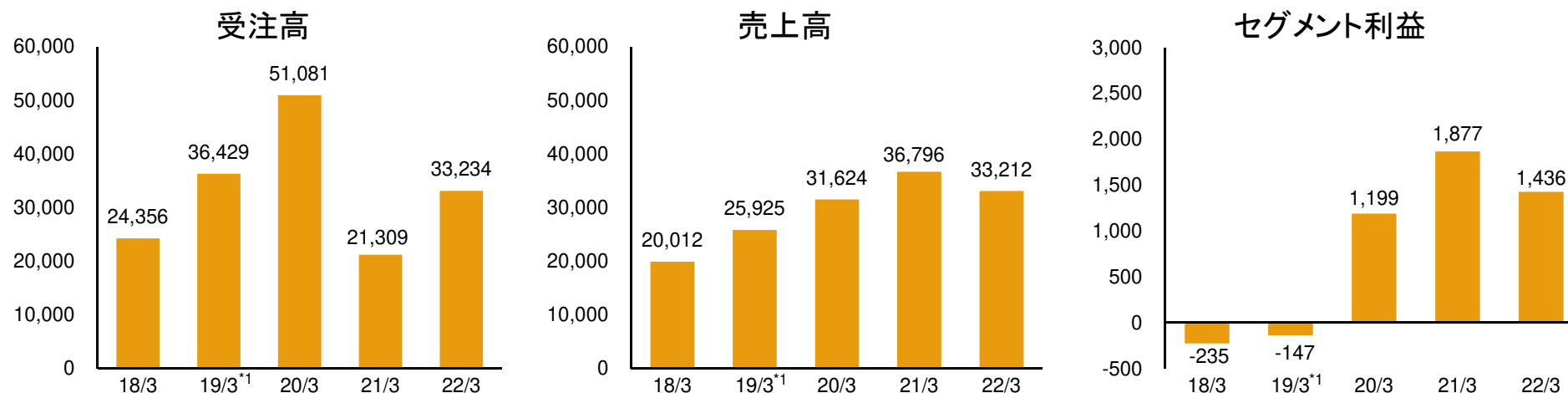
業績の推移(直近5期)



セグメント別の業績推移

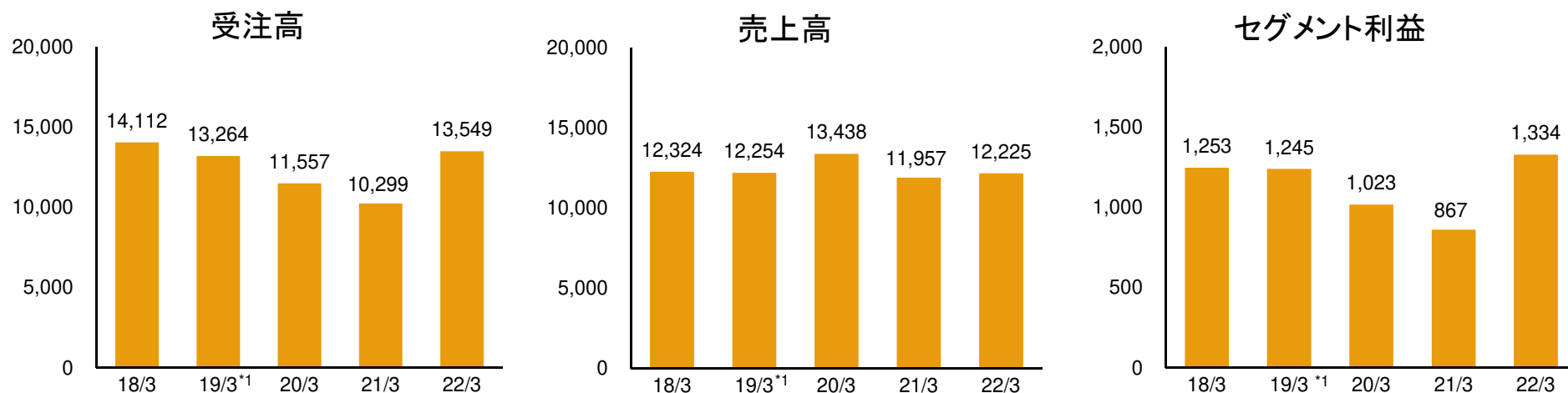
① エンジニアリング事業の業績推移(直近5期)

(単位: 百万円)



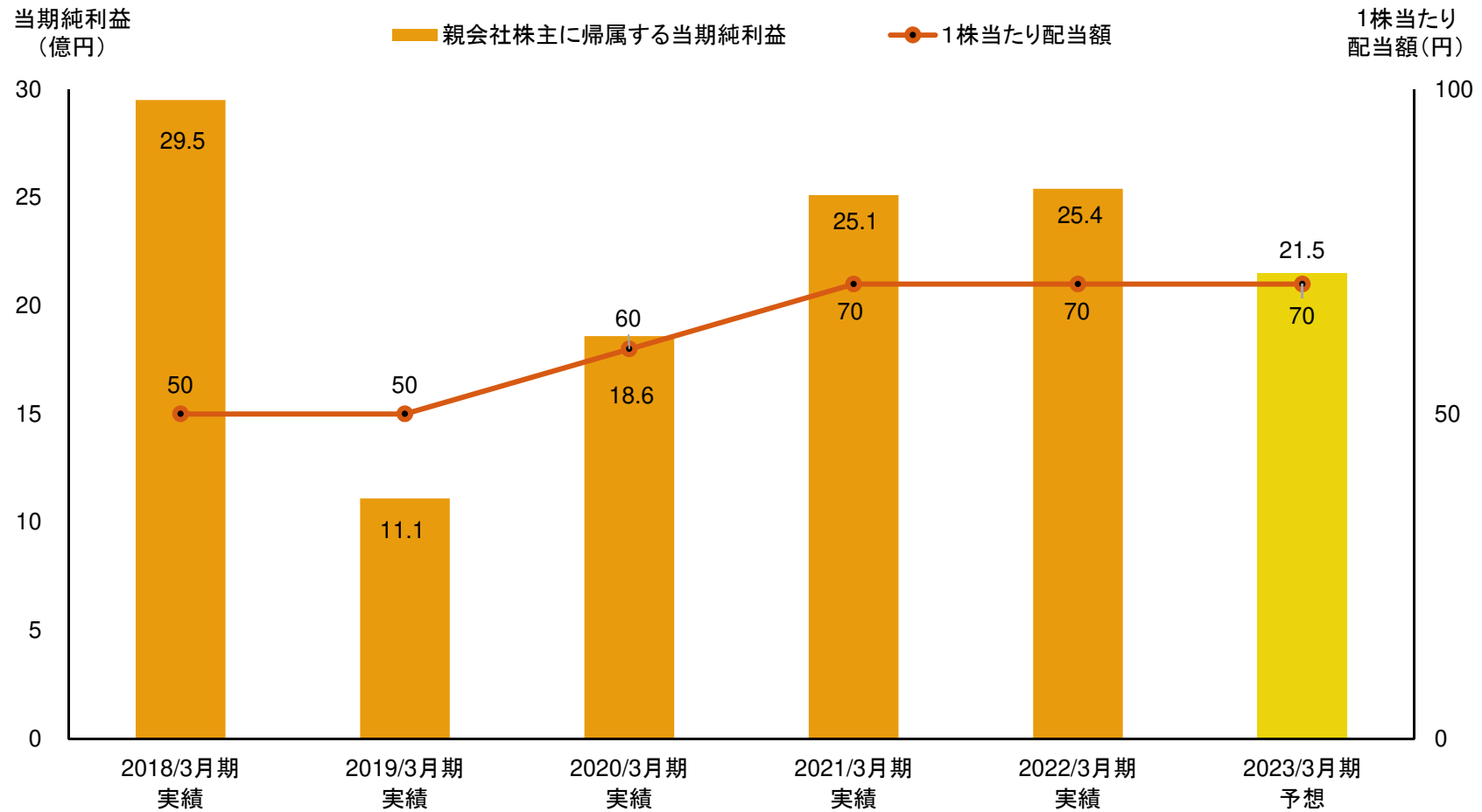
② 単体機械事業の業績推移(直近5期)

(単位: 百万円)



*1: 2019/3期について、2019年4月1日付で実施したグループ内組織再編に伴うエンジニアリング事業と単体機械事業の数値の組替を行っております

(参考) 配当推移



配当総額	3.95億円	3.95億円	4.61億円	5.37億円	5.37億円	5.38億円
配当性向	13.4%	35.4%	25.2%	21.1%	20.9%	24.8%

Appendix 2.

会社概要

会社概要(2022年3月31日時点)

商号	三菱化工機株式会社 (Mitsubishi Kakoki Kaisha, Ltd.)
本社	本社： 神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号 本社事務所： 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館
設立	1949年9月(創立1935年5月)
資本金	39億5,697万5千円
発行済株式数	7,913,950株
連結従業員数	919名
事業内容	各種プラント・環境設備及び各種単体機械等の設計、製作、据付、販売

沿革

1935	三菱各社の出資により化学工業用機械国産化のために化工機製作(株)として創立
1958	大阪営業所を開設(現、大阪支社)
1961	四日市製作所を開設
1970	鹿島工場を開設
1972	株式会社化工機環境サービスを設立
1978	化工機商事株式会社を設立
1995	オランダ王国・アムステルダム市に当社、三菱商事(株)の共同出資による合併会社MKK EUROPE B.V.を設立
1999	子会社を再編(技術関連3社は化工機プラント環境エンジ(株)(KPEC)に、厚生・サービス関連2社は化工機商事(株)に合併・再編)
2008	中華人民共和国・上海市に当社100%出資による菱化貿易(上海)有限公司を設立
2009	鹿島工場の第二製缶工場が竣工
2010	タイ王国・バンコク市に現地法人MKK Asia Co., Ltd.を設立
2012	川崎製作所に油清浄機生産工場が竣工
2016	監査等委員会設置会社へ移行
2018	MKK EUROPE B.V.の株式追加取得を行い、同社を連結子会社化
2019	工場・子会社を再編(菱化製作所をKPECへ吸収合併、四日市/鹿島工場の工事等機能をKPECへ吸収分割) 菱化貿易(上海)有限公司を菱化機械技術(上海)有限公司へ商号変更
2020	化工機プラント環境エンジ(株)への株式割当増資を行い、同社を三菱化工機アドバンス(株)へ商号変更
2021	台湾支店を開設 川崎市幸区に本社事務所を開設し、本社機能に移転

事業所一覧 (2022年4月1日時点)

国内拠点

- 本社
- 支社・支店・事業所
- 営業所
- 工場
- 海外事務所
- 連結子会社
- 非連結子会社



海外拠点



本社	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社 ● 本社事務所 	営業所	○ 営業所(東北、横浜、名古屋、広島)
		工場	<ul style="list-style-type: none"> ● 川崎製作所 ● 鹿島工場 ● 三菱化工機アドバンス北九州工場
支社・支店・事業所	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪支社 ○ 四日市事業所 ○ 九州支店 ○ 沖縄支店 	海外事務所	<ul style="list-style-type: none"> ● 台湾支店 ● マレーシア営業所 ● インドネシア駐在員事務所

グループ会社	連結子会社	<ul style="list-style-type: none"> ● 三菱化工機アドバンス株式会社 ● 化工機商事株式会社 ● MKK Asia Co., Ltd.(タイ) ● MKK EUROPE B.V.(オランダ)
	非連結子会社	<ul style="list-style-type: none"> ● 菱化機械技術(上海)有限公司(中国)

製品紹介 エンジニアリング事業 プラント事業



▶ ケミカルプラント建設



▶ 超低温合成反応装置



▶ 液ガス熱調設備



▶ HyGeia-A(ハイジェイア-A)
小型オンサイト水素製造装置



▶ 中型水素製造装置



▶ 大型水素製造装置



▶ 温水式LNG気化器



▶ LNG(液化天然ガス)サテライト設備



▶ MKK川崎水素ステーション



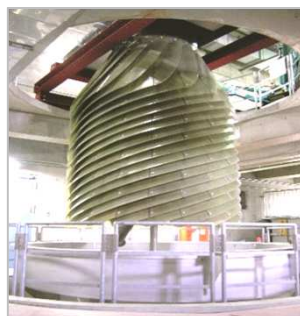
▶ 汚泥熱可溶化
消化装置



▶ 無動力消化槽



▶ 生物脱臭プロセス(充填式生物脱臭法)



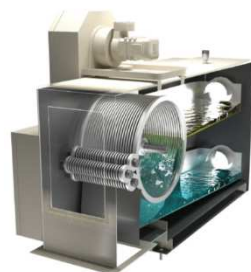
▶ 超高速
沈殿装置



▶ 膜分離活性汚泥法



▶ バイオガスシステム



▶ 高機能型スイングディスクスクリーン
SDS(SC-SDS)



▶ ダブルピッチ
バケットコンベヤ



▶ 超微細気泡散気装置
(FlexAir™ MiniPanel)



▶ 三菱セルフジェクター
SJ-Hシリーズ



▶ 連続ろ過機CURUPO®



▶ 三菱ダイナフィルター
DyF® (DyF312シリーズ)



▶ 医薬GMP対応
横型ピーラー遠心分離機
(HZ-PhII) 三菱-AKMPT式



▶ NOx規制対応
EGRエンジンシステム用
排水処理装置



▶ 連続式真空、加圧ろ過機
(ドラム型) 三菱ブロー
バックフィルター (BBF)



▶ 三菱シュナイダー
フィルター



▶ 三菱除塵装置(スクリーン)



▶ MJ-SOx (SOxスクラバー)

▶ 開発、少量生産用固液分離機のラインナップ



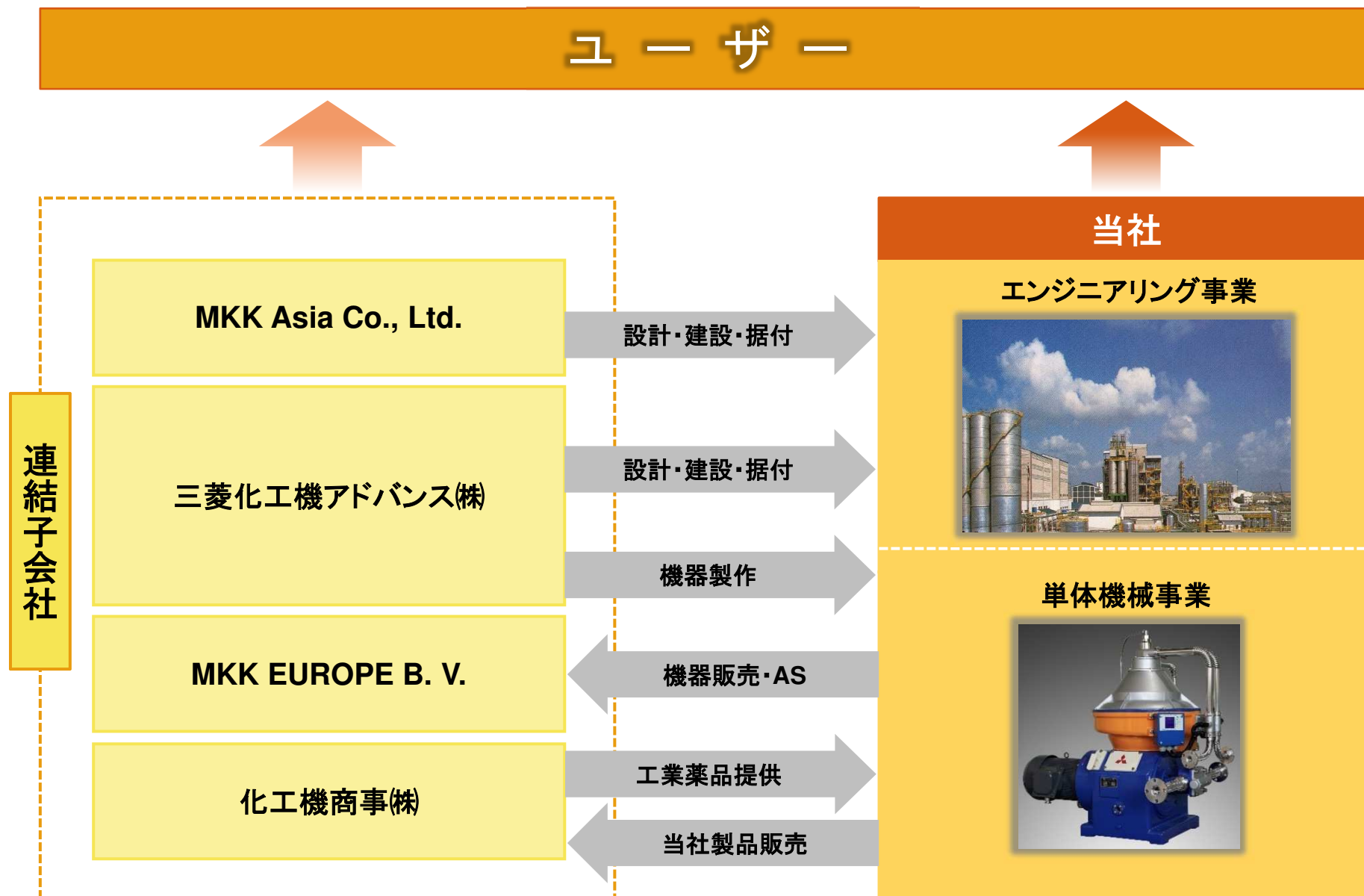
小型ろ過乾燥機



小型ろ過試験機
三菱オートリーフテスター MAT



回転式セラミック膜ろ過機
三菱ダイナフィルター DyF152/S



IRに関するお問い合わせ先

三菱化工機株式会社 企画部

電話: 044-333-5354

本資料に関する注意事項

本資料に掲載の企業、団体等の名称については、敬称を略して掲載しております。

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

